



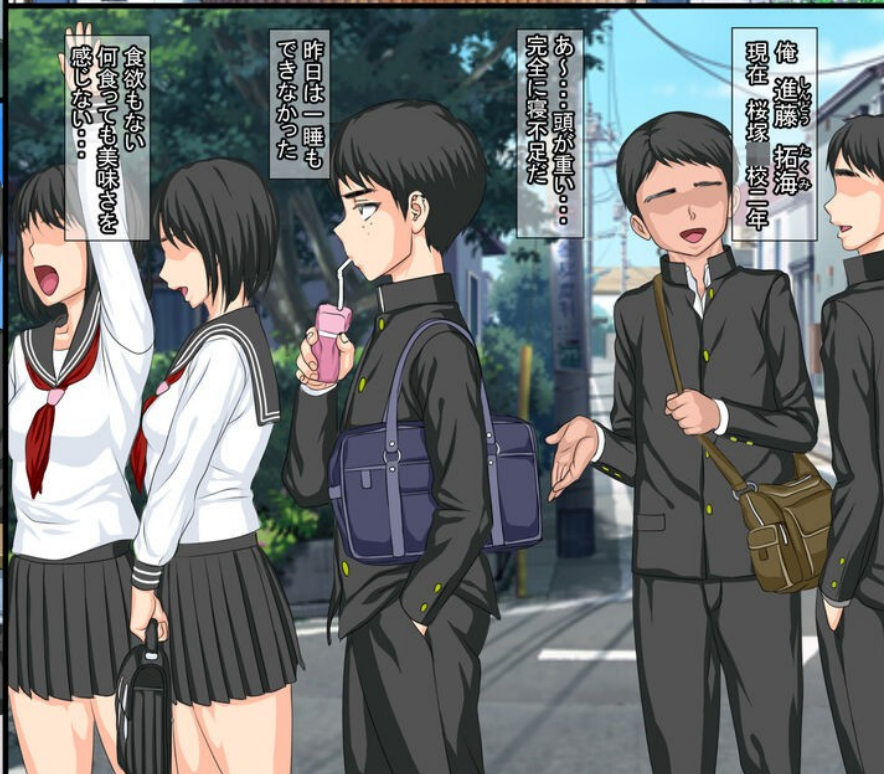
まるみ屋



大ボリューム！ フルカラーコミック53P



俺の初カノが
漫研の先輩に寝取られてセックス中毒になっていた





中学の頃は
テニス部だとか

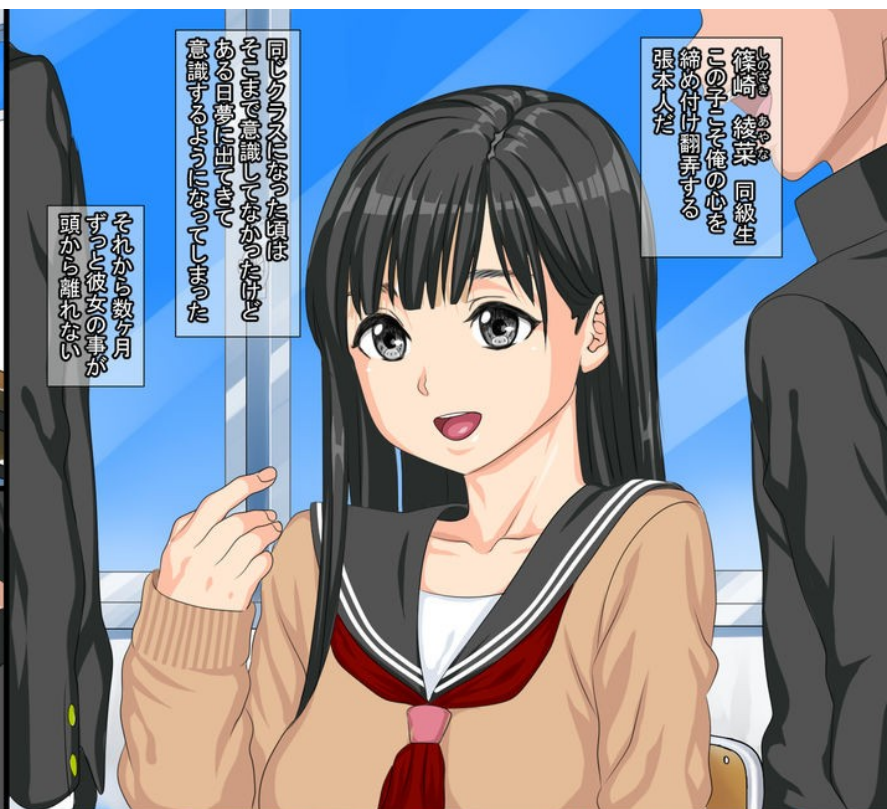
ダテの情報によれば
部活は漫研に入っている
特にオタク的趣味は無いようだけど
友達に強引に入部させられたらしい



彼女の周りには
常に人がいる

この可愛さなら当然なのだが
カースト上位の男子に独占され
もはや俺の入る隙は無い

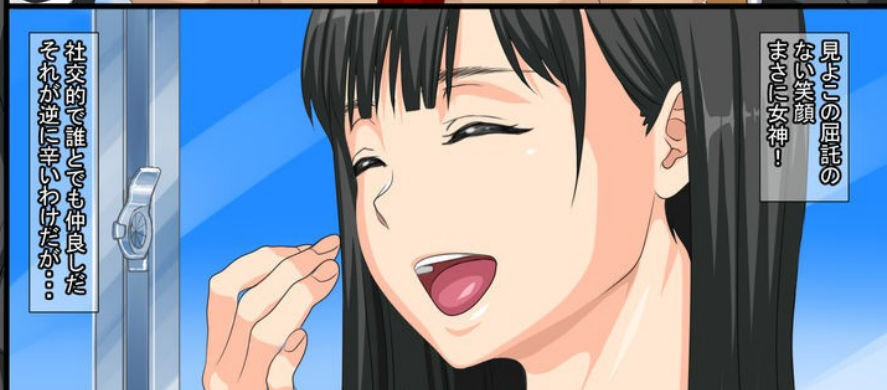
噂では半生で男もの
男から告白されたらしい
全員断ってるようだけど
それだけ理想が
高いというわけか...



篠崎 綾菜 同級生
この子こそ俺の心を
締め付け翻弄する
張本人だ

同じクラスになった頃は
そこまで意識してなかったけど
ある日夢に出てきて
意識するようになってしまった

それから数ヶ月
ずっと彼女の事が
頭から離れない



見よこの屈託の
ない笑顔
まさに女神！

社会的で誰とでも仲良しだ
それが逆に辛いわけだが...

所詮俺には
手の届かない存在だ
負け組の希望みほと
見苦しいものは無い

もう諦めよう...
この三回りのエネルギーを
他の何かに回せるんだ
忘れることで心が解放できる

食欲が無い...
眠れない...
胃が痛い...
あれだけ楽しみな
していた新作ゲームも
絶賛放置中...

恐るべき
恋の病...

しかし...

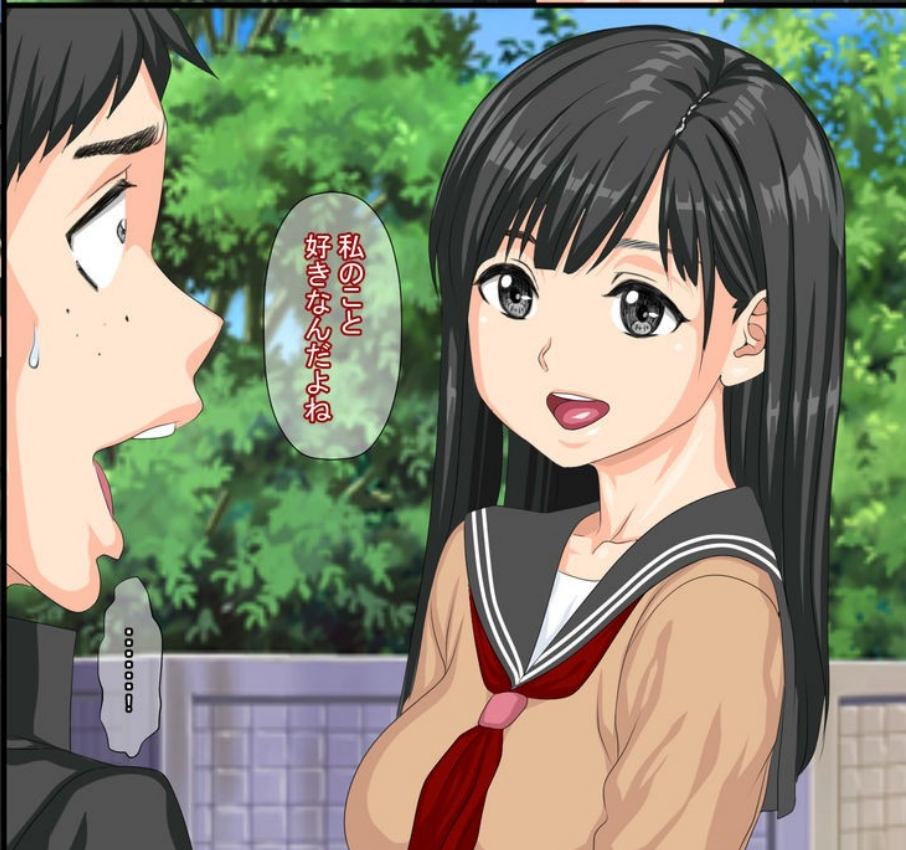
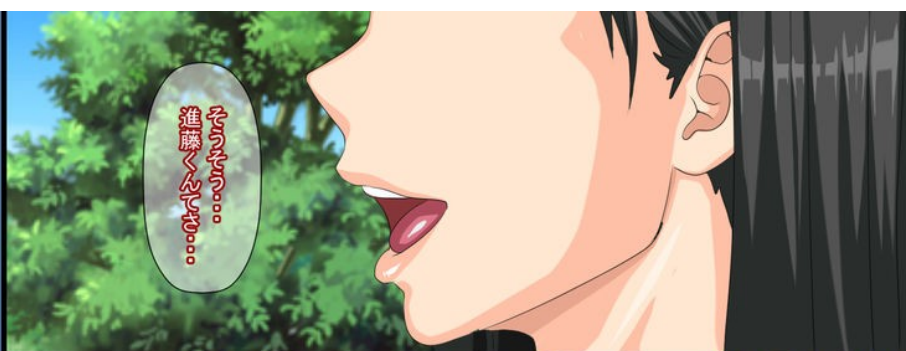
簡単に諦めれるなら
苦労はないわけで...

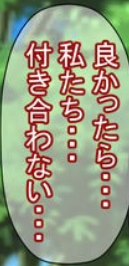
はあ...
どうすれば
いいんだ...

ハ?

しかし翌日
とんでもない事態が
俺を待ち構えていたのだ...











大切にしたい
守ってあげたい
という男の本能が
自然に芽生えてくる

ずっとこのまま
幸せであります
ように...

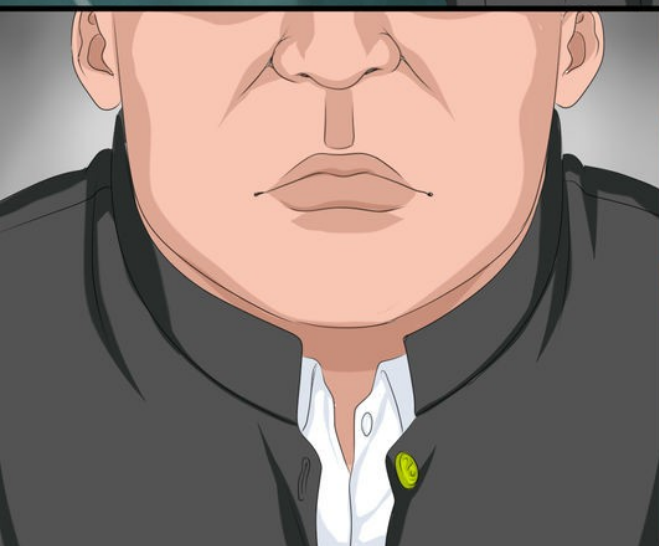


こうしてある日突然訪れた
奇跡のような出来事によって
俺の生まれて始めての
記念すべき交際がスタートした

下校時や休日デートなど
二人だけの幸せな時間が
過ぎていく...

俺の目に映る世界は
以前とはまるで何もかもが
違う景色だった

これが彼女と
いうものなのか...
まだ若干夢と現実の
間でフワフワする
ようなそんな感覚だ



付き合い始めて知った
彼女の性格も温厚で
優しく...まさに
理想通りの人だった
たまに見せる天然ボケが
たまらなく可愛い

おいしい？

うん！

毎日俺の分まで作ってくれる
手作り弁当の美味さといったら
愛情のスパイスも加味され
もはや口では言い表せないレベル







うん……

……きゅんきゅん……
すっぴーん……



だけど……
彼女は……

好きという気持ちが
どんどん溢れてきた
彼女とこの先も
ずっと変わらないまま
愛し続けたいと願った



キスをした

僕たちは……
生まれて初めて……



彼女への愛しさが
込み上げてくる
嬉しすぎて涙が
出そうだ……

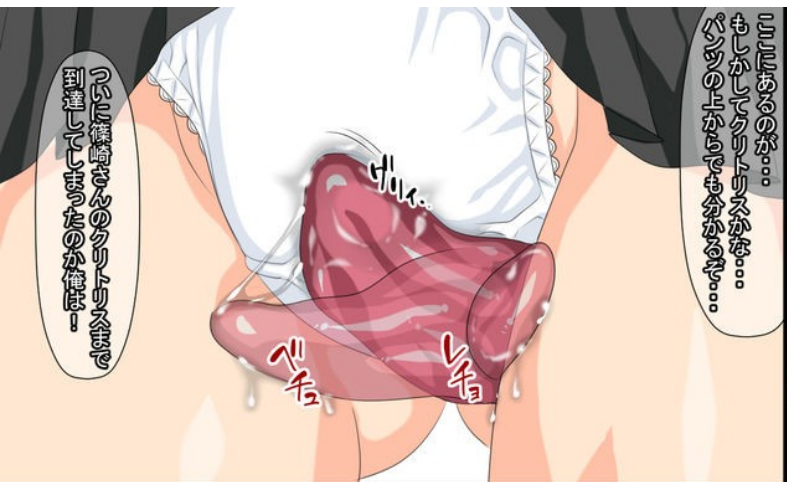
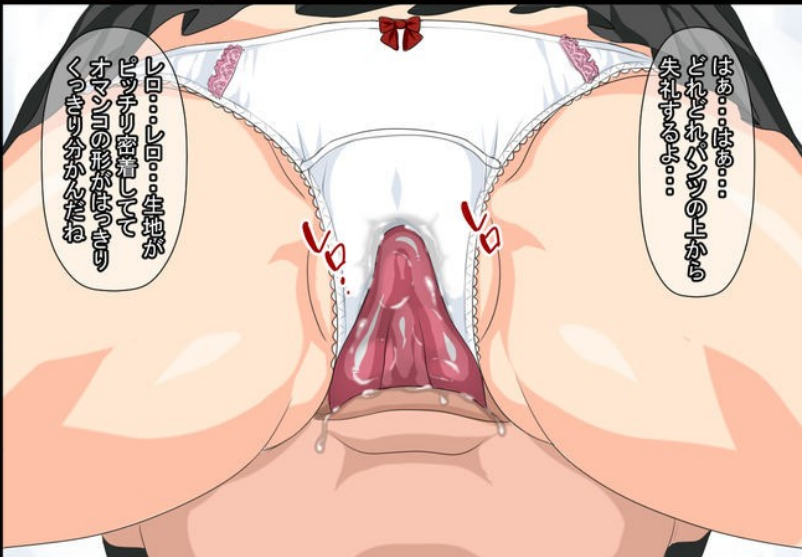
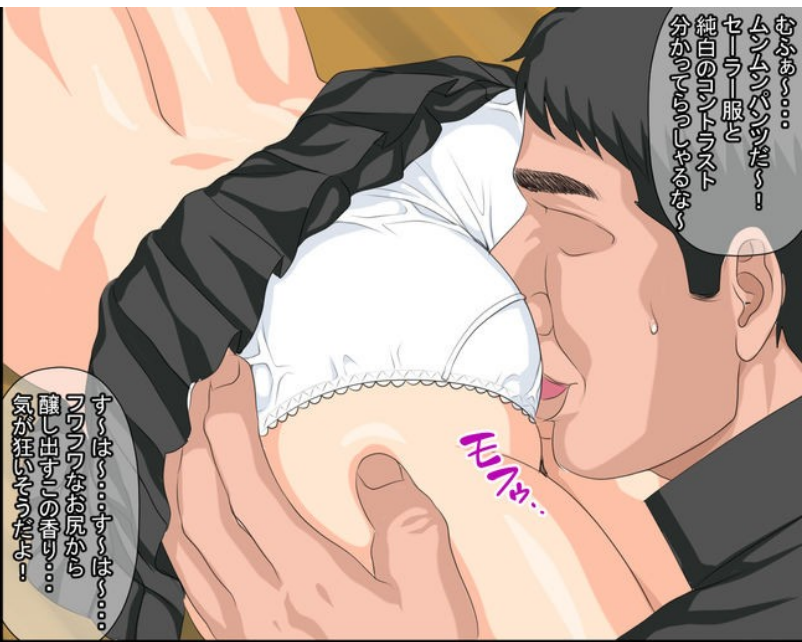
幸福に満たされていく……
ふんわりと柔らかい唇に
全身が溶かされるような
不思議な感覚……

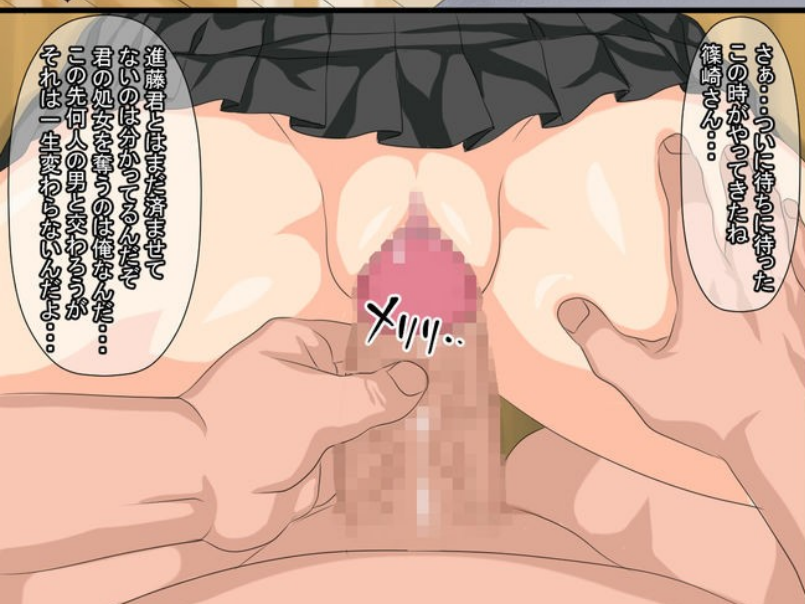








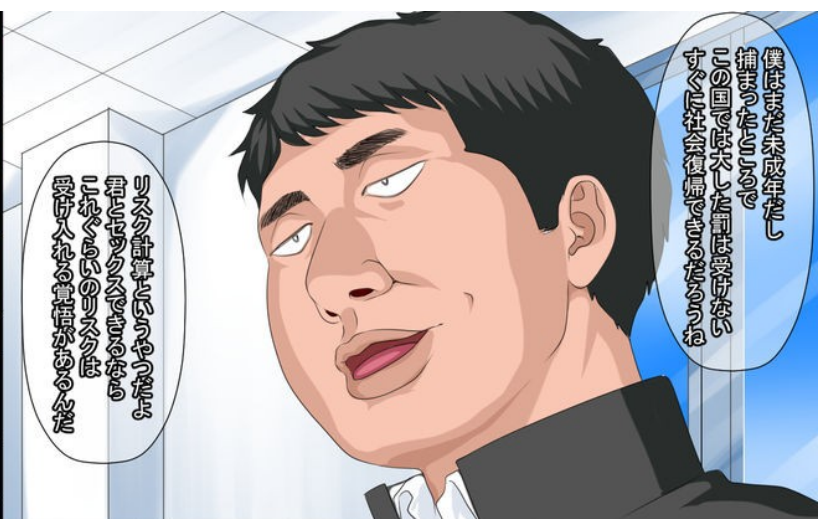
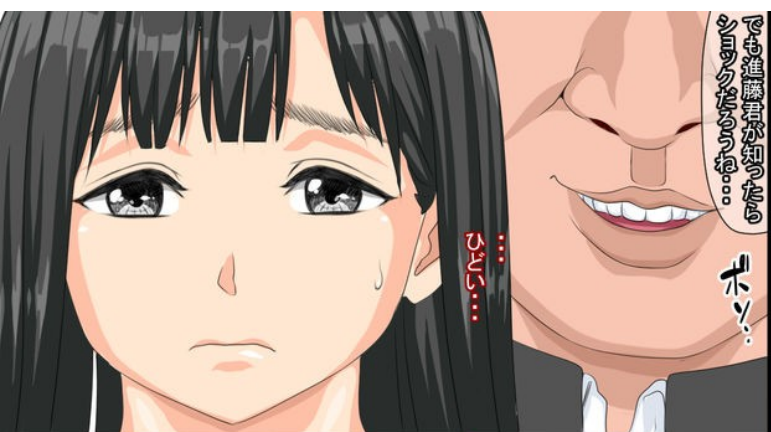










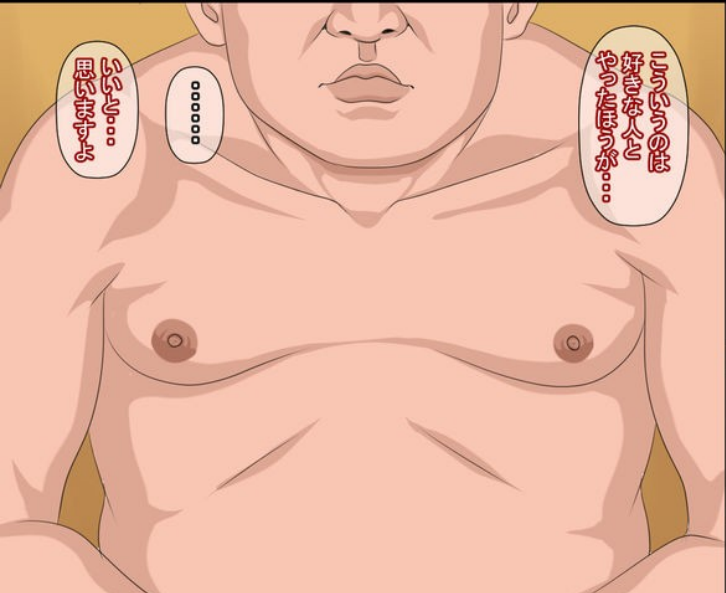






お……お……お……
じいじい……
止……止……

お……お……お……
じいじい……
止……止……



じいじい……
お……お……
止……止……

お……お……お……
じいじい……
止……止……



い……い……い……
お……お……お……
止……止……

お……お……お……
じいじい……
止……止……

お……お……お……
じいじい……
止……止……

その後も私はセンパイから
何度も卑猥な要求をされ
少しずつセックスする事に
慣れていきました……

一ヵ月後……







